

日本都市社会学会ニュース

NO. 103 (2016. 3. 28)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学教育学部・山口恵子研究室内

e-mail: usocio@urbansocio.sakura.ne.jp fax: 042-329-7429

URL: <http://urbansocio.sakura.ne.jp/>

(振替口座：00140—4—703976)

日本都市社会学会 第34回大会

歓迎の言葉

近藤 敏夫（佛教大学）

日本都市社会学会第34回大会を、2016年9月3日（土）、4日（日）の日程で佛教大学紫野キャンパスにて、お引き受けすることになりました。

日本都市社会学会大会は他の大きい学会とは異なり、専門を共有する研究者が有意義な報告をし、また質疑応答も発展的になされますので、大会期間中に大いに触発されるところがあります。若手研究者も新しい視点で堅実な研究成果を報告することが多く、世代を超えて互いに得るところがあるのではないのでしょうか。本年度の大会でも、アットホームな暖かさを保ちながらも、刺激的な報告と活発な質疑応答がなされることと思います。

佛教大学は浄土宗総本山知恩院の仏教講究機関を前導とし、大学としては1912年に開学いたしました。当初は仏教を学ぶ単科大学でしたが、現在は仏教学部、文学部、歴史学部、教育学部、社会学部、社会福祉学部、保健医療学部の7学部を擁しています。キャンパスは紫野キャンパスと二条キャンパスの2カ所に分かれており、さらに通信教育という場（キャンパス）でも研究・教育が行われているのが特徴です。在籍学生・院生数は通学生7,000人、通信生10,000人程度の中規模の大学です。本年度の大会をお引き受けするのは紫野キャンパスにある社会学部です。社会学部は現代社会学科（文化・国際コース、共生・臨床社会コース、情報・メディアコース）と公共政策学科（環境政策コース、地域政策コース）から成ります。教員の専門領域は社会学以外にも環境学、経済学、政治学など多岐にわたっていますので、多様な視点から議論がなされて目から鱗が落ちることもあります。日本都市社会学会会員が2名しかいないのが残念なところですが、

大会当日は残暑厳しい京都になると予想されますのでご注意ください。会員が増えることを期待しつつ、お迎えの準備をさせていただきます。皆様方のご来校を心より歓迎いたします。

最後になりましたが、学会日程が当初とは変更になりましたことをお詫びいたします。

大会案内（会場・交通・宿泊）

1. 期間および会場

期間 2016年9月3日（土）～9月4日（日）

会場 佛教大学紫野キャンパス 1号館（〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96）

食事 大学周辺の飲食店がご利用いただけます（大会当日、飲食店マップを配布します）。
懇親会場は学内の食堂を予定しています。

2. 交通のご案内

- (1) JR 京都駅を起点とする場合、地下鉄（四条・烏丸御池・国際会館方面）で「北大路」下車（南改札）、京都市バス（青のりば）から1番、北8番※で「佛教大学前」下車、または101番、102番、204番、205番、206番、M1番で「千本北大路」下車、北方向に徒歩3分。（※北8番のみ乗車時に乗車券を取る必要がありますのでご注意ください。） 所要時間30分から40分
- (2) 阪急大宮駅を起点とする場合、京都市バス6番、46番で「佛教大学前」下車、または206番（北大路バスターミナル行）で「千本北大路」下車、北方向に徒歩3分。 所要時間20分から30分
- (3) 詳しくはホームページ参照：<http://www.bukkyo-u.ac.jp/about/access/murasakino/>

3. 佛教大学紫野キャンパス

詳細な会場案内図は「日本都市社会学会ニュース」（7月号）に掲載させていただきます。



4. 宿泊のご案内

京都市内の土曜日宿泊は非常に困難です。リーズナブルな宿がない場合、ネット等で1万円以下の JR 沿線ホテルを「現金払い」で押さえておき（大津市、草津市、大阪方面）、キャンセル料が発生する前に空室が出れば市内のホテルに変更するのがよいでしょう（ネット価格は目まぐるしく変動します）。

大会企画（企画委員会報告）

企画委員会では第34回大会に向けて、「テーマ部会報告」「シンポジウム」「特別セッション」を加えた3つの企画を準備しています。

テーマ部会報告は第29回大会から試みられたものであり、今回も開催したいと思います。テーマ報告部会では緩やかな共通テーマの下に報告者を広く募集します。今回は「メガイベントと都市」をテーマに開催いたします。これは日韓ジョイント・セッションを兼ねて企画されたものです。日本では2020年に東京で夏季オリンピックが、韓国では2018年に平昌で冬期オリンピックが開催されます。これ以外にもさまざまなメガイベントが予定されています。このようなメガイベントが都市をどのように作り替えていくのかを聞きたいと思います。標記のテーマに関する分析・研究されている会員のみなさまの積極的な応募をお待ちしております。

今年のシンポジウムは「バブル期の都市問題とジェントリフィケーション論」をテーマに開催いたします。これは昨年度のテーマ部会をシンポジウムにて引き継ぐものです。日本におけるジェントリフィケーション研究を今日から振り返ると、一つの疑問が浮かんできます。それは1980年代に社会問題となった「地上げ」がなぜジェントリフィケーション研究へと接続しなかったのかという疑問です。欧米にてその研究が本格化する1980年代において、なぜ「地上げ」への着目がジェントリフィケーション研究に向かわなかったのかを検討し、ここから今日の日本の都心再編を捉えるための視点を検討していきます。

また今回、「鈴木広と奥田道大の都市社会学と現在」と題して特別セッションを開催いたします。2014年に鈴木広先生、奥田道大先生がお亡くなりになりました。お二人の先生の問題関心やアプローチ、そして理論的蓄積を我々はどのように継承すべきか。ここではお二人の先生の研究を学説史において適切に位置づけつつ、「都市と地方」「都市とグローバリゼーション」という領域で研究される先生に登壇いただき、お二人の先生の何を、どう継承すべきかを報告してもらいながら、都市社会学としてどう継承するかを考えてみたいと思います。

以上、今大会の大会企画の概要を紹介いたしました。詳しくはそれぞれの説明文をお読みいただければ幸いです。
(企画委員会委員 高木竜輔)

テーマ報告部会 「メガイベントと都市」

【報告者募集】

【趣旨】 今年度の日韓ジョイント・セッションのテーマは、「メガイベントと都市」です。日本国内に目をむけると、日本の高度経済成長期以降、東京オリンピック（1964年）、日本万国博覧会（1970年）などのメガイベントにはじまり、地域の歴史や文化・伝統にこだわらない新しい祭りやイベントが各地で創造されています。それらの祭りやイベントは国の政策と密接な関連があります（1950年、国土総合開発法の制定～同年、青森ねぶたまつりの復活）。四全総時代の各種イベントは、「個性豊かな地域づくり」の施策として提言され、今日まで、地域経済の活性化策として注目されています。一方の韓国では1988年ソウルオリンピックを契機にソウル首都圏の都市開発事業がはじまり、江南地域のジェントリフィケーションによって、都市の「商品化」が鮮明になっていたことが指摘されています。現在は、郊外都市の産業構造の転換のなかで、工業中心の旧来型産業からの知的集約型産業や文化芸術型産業へ転換する起爆剤としてのコンテンツツーリズムへの期待が増しています（釜山・映画都市、富川・マンガ都市など）。しかし、東京オリンピック時、1回目の立ち退きをした新宿の都営アパートが、2020年の東京オリンピックでは2度目の立ち退きを迫られているように、江南再開発事業が地元住民を追い出すことで完成したように、イベント創造の背後には、つねに排除や立ち退き問題が存在します。そこで、今回の日韓共同セッションでは、このような日韓の両国に共通するメガイベントによる都市開発・創造都市の問題に対して、都市社会学がどのような視点から調査研究をしてきたのか、日韓の報告者による議論をとおして検証していきたいと考えます。今回の日韓ジ

ョイント・セッションでは、韓国地域社会学会から1名、日本都市社会学会から2名の報告者の登壇を予定しています。そこで今回、学会員の中から報告者2名を募集します。報告希望の方は下記の応募方法に従って応募してください。なお、報告は、韓国側は韓国語、日本側は日本語で行います（それぞれ通訳あり）。

- ・ **申し込み締切**：2016年4月22日（金）18時（必着）。件名に「テーマ報告部会申し込み」と明記の上、氏名、所属、連絡先、報告題目をメールでお知らせください。
- ・ **報告要旨提出の締切**：2016年6月5日（日）18時（必着）。
- ・ 報告要旨は自由報告部会と同じ形式で作成してください（50字×20行以内）。ファイル名は「34theme***」（***の部分には名字のローマ字、例えば33thememoon）としてください。メールの件名をテーマ報告部会要旨送付であることがわかるものにしてください（例えばテーマ部会報告要旨送付／文）。
- ・ **申し込み先**：日本都市社会学会事務局（usocio@urbansocio.sakura.ne.jp）
- ・ 希望者多数の場合は、自由報告に回っていただくことがあります。
- ・ 本件に関する情報は日本都市社会学会のホームページにアップされますので、ご覧ください。また、お問い合わせはテーマ報告部会企画委員・文貞實までお願いいたします（moon@toyo.jp）。

（企画担当委員 文貞實・松宮朝・丸山真央）

シンポジウム 「バブル期の都市問題とジェントリフィケーション論 ——なぜ「地上げ」は「ジェントリフィケーション」と呼ばれなかったのか」

【趣旨】 2015年度大会のテーマ部会では、日本の都市研究におけるジェントリフィケーション論の不在を、海外の事例との比較を通じて検討した。ジェントリフィケーションとは、都市における特定地域の建造環境が改善され、それと同時に住民がより高い社会階層へ入れ替わっていく過程を批判的に捉えた概念である。この概念は英語圏を中心に広く国際的に共有され、政治経済的あるいは社会文化的な観点から様々な分析が試され、研究蓄積が進んでいる。しかしそれらと比べて日本の都市社会学では、同じ形で議論の争点になることはなかった。

そこで2016年度のシンポジウムでは、こうしたジェントリフィケーション論の不在を、バブル期（1980年代後半から1990年代前半）の都市構造再編を振り返って議論してみたい。当時すでに「インナーシティ問題」については広く問題関心を呼び、多くの調査が手がけられていた。そして何より大都市で横行した「地上げ」は、同時代の英語圏におけるジェントリフィケーション論と共鳴する研究領域になりうる現象であった。にもかかわらずバブル期の都市構造再編がジェントリフィケーション論と明確に結びつかなかったのは、なぜだろうか。2015年度大会のテーマ部会で共有できた認識のひとつは、ジェントリフィケーションをめぐる議論が、インナーシティの土地建物からの資本の引き上げと再投資といった過程だけでなく、その結果生じる借家人の立ち退きや地域社会崩壊への対抗運動があつてこそ成り立つという知見である。1980年代後半以降の日本の都市構造再編についても、それをめぐる当時の政治的争点の浮かび上がり方や、80年代都市論を含む各種言説の布置状況も含めて再検討する必要があるだろう。（企画担当委員 下村恭広）

特別セッション 「鈴木広と奥田道大の都市社会学と現在」

【趣旨】 長きにわたって都市社会学の先頭で活躍されてきた鈴木広先生と奥田道大先生が相次いで去られたのは2014年のことであつた。学問研究が巨人の肩の上に立つことで前進するものだとするならば、両先生はともに文字通りの巨人として、後に続く者の確かな橋頭堡となる極めて大きな存在であつた。

都市社会学にとってのひとつの時代が過去へと移ろいゆこうとしている今日こそ、これまで拠って立つことができた足場そのものを改めて確認すべき時である。鈴木・奥田から今日へと連なる都市社会学の展開に眼を向けつつ、それらを超えて我々は今どこに到達したのか、そしてこれから何を目指そうとするのかについて、この特別セッションで考えてみたい。

焦点を合わせるトピックはコミュニティである。1970年代、おふたりが都市社会学的研究の立脚点としてともに重視したのがコミュニティの概念であった。コミュニティはマクロな都市の構造変動を実証的、批判的に分析するための鍵概念として、分析単位であるとともに方法論的なパースペクティブとして戦略的な重要性を付与された。おふたりが礎を築いた都市コミュニティ論は日本の都市社会学会の共有財産として定着している。

しかし他方で、大都市をフィールドとした奥田と地方都市をフィールドとした鈴木とでは、コミュニティの捉え方は自ずと異なるものとなった。そうした空間的文脈に規定されて、おふたりの後年の研究も異なった展開をたどった。奥田の研究関心がグローバル化に向かったのに対し、鈴木は環境社会学的研究への歩み寄りを見せた。おそらくおふたりはそうした研究に都市社会学の発展の道筋を探ろうとされたのだと思う。共通の時代的文脈において異なった空間的文脈から構築されたコミュニティ論、そしてその後の展開から、われわれは何を継承し、何を乗り越えていくべきなのか。本セッションでは、現在コミュニティ研究の第一線でご活躍されている田中重好氏と玉野和志氏のお二人を報告者に招き、コミュニティおよびコミュニティ研究のこれまでとこれからについて議論していく。

今日ではコミュニティの概念はいささか陳腐化し、それに対する都市社会学的な研究関心も後景に退いている印象を受ける。しかし過去の遺産に対する真摯な対峙なしに都市社会学の発展はありえないし、この点で二人の巨人が残した足跡は依然として豊かな鉱脈であり続けている。とくに鈴木広と奥田道大を知らない若い世代の積極的な参加を期待したい。
(企画担当委員 室井研二)

自由報告の募集

【報告者募集】

第34回大会の自由報告を募集します。どうぞ奮ってお申し込みください。なお、自由報告の申し込みと同時に報告要旨を提出していただき、7月発行の「学会ニュース」（第104号）に自由報告要旨を掲載することになっております。自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に行ってください。

(1) 自由報告の申し込みおよび報告要旨の提出方法（締め切り：2016年6月5日（日））

次の①～⑤をA4サイズ1枚に記し、保存した文書ファイルを、6月5日（日）午後6時までに学会事務局（usocio@urbansocio.sakura.ne.jp）宛に、E-mailに添付してお送りください。添付ファイルは、テキスト形式または「Microsoft Word」形式、ファイル名は「34jiyu ***」（***は報告者の名前をローマ字で入れる）としてください（例 34jiyu yamaguchi）。提出後の内容の修正は、受け付けません。

- ① 報告タイトル（仮題は不可）
- ② 報告者氏名・所属（共同報告の場合は登壇者に○）
- ③ 報告要旨（50字×20行以内を厳守）
- ④ 発表時に使用する機材
- ⑤ 連絡先（郵便番号・住所・電話番号・E-mailアドレス）

申し込み締め切りを過ぎたものについては、一切受け付けないことになっています。メンテナンスなどのためにサーバーが一時不通になることもありますので、余裕を持って申し込みされるようお願いいたします。

(2) 注意事項（必ずお守りください!）

- ・ 共同報告の場合、登壇者は日本都市社会学会の会員に限ります。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申し込みを行う前に、入会の手続きをお済ませください。入会手続きについては、学会ホームページをご覧ください。
- ・ 報告要旨は、「報告の要旨」を会員に事前にお知らせすることを目的としておりますので、図表は入れ込まず、文章のみで作成してください（学会ニュース 1 ページに 2 つの報告要旨を掲載します）。
- ・ この要領に反し、本文が 1 行 50 字で 20 行を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内に訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意ください。
- ・ 大会当日にレジュメ／資料を配布する場合は、各自で別途ご用意ください。
- ・ 使用する機材については、会場の都合により不可能となる場合もあります（パワーポイントを使用する場合、PC は持参してください）。

＜自由報告申し込みと報告要旨原稿の提出方法＞

締 切	: 2016 年 6 月 5 日（日）午後 6 時 必着
申込み・報告要旨原稿提出の方法	: E-mail による
申込み・報告要旨原稿提出先	: 学会事務局 usocio@urbansocio.sakura.ne.jp

（事務局担当理事 山口恵子）

会員の皆さまへのお知らせ

編集委員会報告

- (1) 『日本都市社会学会年報』第 34 号の編集が進んでいます。特集は「震災をめぐる土着・流動とコミュニティの再生」と「ジェントリフィケーション研究のフロンティア」を予定しています。
- (2) J-stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpasurban/-char/ja/>) で『日本都市社会学会年報』第 32 号（2014 年発行）までが閲覧できます。学会 Web サイトにもリンクが貼られていますので、ご利用ください。

（編集委員長 西村雄郎）

『日本都市社会学会年報』35 号 自由投稿論文・研究ノート募集について

【募集】

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』35 号（2017 年 9 月発行予定）に掲載する「自由投稿論文」、「研究ノート」および「書評リプライ」の原稿を募集します。投稿を希望される方は、『年報 33 号』（2015 年発行）に掲載されている投稿規定および執筆要項をご覧ください。審査用原稿（3 部）を 2016 年 11 月 30 日（消印有効）までに、下記の編集委員会事務局宛に郵送してください。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしています。投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

739-8521 東広島市鏡山 1 丁目 7-1

広島大学大学院総合科学研究科 西村雄郎研究室内
日本都市社会学会編集委員会事務局

E-mail: nisimura@hiroshima-u.ac.jp

（編集委員長 西村雄郎）

国際交流委員会報告

すでにお知らせしましたように、今年度は韓国地域社会学会の方々が当方の学会大会へ参加してください。韓国地域社会学会の会長をはじめ7名の方がいらっしゃる予定です。両学会の交流が益々深まることを願っております。なお日韓ジョイント・セッションについては、先に提案したテーマ「メガイベントと都市」について、韓国側からも同意が得られ、現在報告者の公募をいただいている段階です。実り多いセッションとなることを期待しております。

(国際交流委員会委員長 玉野和志)

社会学系コンソーシアム報告

2016年1月30日(土)、日本学術会議にて社会学系コンソーシアムの第8回評議員会とシンポジウム「日本社会のグランドデザインー将来像と制度改革ー」が開催されました。当学会からは、後藤(理事から)と松菌祐子会員(非理事から)の2名が評議員として選出されていますが、当日は松菌会員、所用の後藤に代わり浅川達人理事が出席致しました。

評議員会(31学会・62名の評議員で構成)では、役員改選の選挙が行われ、10名の理事と2名の監事が決まりました(任期は2016年2月1日からの2年間)。シンポジウム終了後に開催された次期理事打合せにおいて決定された役職を含めて、新役員をお知らせしておきます(括弧内は選出母体学会)。理事長:遠藤薫(日本社会学会)、副理事長:橋本和孝(地域社会学会)、財務担当理事:片桐雅隆(関東社会学会)、シンポジウム担当理事:正村俊之(社会情報学会)・宮本みち子(日本家族社会学会)、理事:池田寛二(環境社会学会)・大石裕(日本マス・コミュニケーション学会)・三浦典子(日本分析社会学会)・山田信行(日本労働社会学会)・好井裕明(関西社会学会)、監事:赤川学(日本社会学会)・数土直紀(数理社会学会)。

評議委員会ではその他に、2015年度の事業報告・財務報告、2016年度の事業計画、学会開催費用有料化の現状と対応策に関するアンケート結果の報告などが行われました。新規事業の展開、事務局員の雇用、旅費の補助などによる支出の増加傾向を受けて、会費の値上げを検討していることについても報告されました。

(社会学系コンソーシアム委員 後藤範章)

理事会報告

2015-16年度第4回理事会が、2月28日(日)午後3時から専修大学神田校舎にて開催されました。企画委員会担当者より、2016年度大会のテーマ部会報告、シンポジウム、および特別セッションの準備状況について報告がなされました。編集委員会担当者より、年報34号の査読状況の報告がなされました。国際交流委員会担当者より、来年度は韓国地域社会学会の会員が当方の学会大会へ参加し、日韓ジョイント・セッションが開催されることが報告されました。学会賞選考委員会担当者より、第6回日本都市社会学会若手奨励賞の経過について報告されました。社会学系コンソーシアム担当者より、2016年1月30日に開催された社会学系コンソーシアムの評議員会の審議内容について報告がなされました。事務局担当者より、学会の財政状況やこれまでの学会大会参加者数の推移について報告がなされました。また、地域ブロックの変更について、入会と入金のルールについて、電子的複製権の管理委託、学会ニュースの発行、第34回大会の開催、入退会の承認について、それぞれ審議されました。

(事務局担当理事 山口恵子)

会員異動

新入会員（2016年2月28日理事会承認）

＜関東地区＞

林 有理（慶應義塾大学大学院）

退会（2016年2月28日理事会承認）

＜中部・関西地区＞

岡村徹也（中日新聞社） 堀田 泉（近畿大学）

＜関東地区＞

松本牧生（富士総合研究所） 飯塚義博（法政大学）

（事務局担当理事 山口恵子）

学会事務局からのお知らせ

◆ 2016 年度 会費納入のお願い

学会費の振替用紙を同封させていただきました。2015 年度会費を納入していただきました会員の皆様、2016 年度（2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日）の会費も、できるだけ早めの納入をお願い致します。2013 年度より一般会員の年会費が 6500 円となりました（学生会員は 4000 円のまま据え置き）ので、お間違いないようお願い申し上げます。外国籍会員の場合、年会費減額の措置が適用される場合もあります。詳しくは、学会のホームページをご参照ください。

また、2015 年度までの学会費をまだ納入されていない会員の皆様は、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入してくださいますよう重ねてお願い申し上げます。

なお、本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、全国の金融機関（一部を除く）と相互に振込ができるようになりました。振替用紙を使わずに振り込むことができますし、振込記録は事務局宛に送られてきますので、事務局が振込を確認することもできます。他の金融機関から本学会の口座に振込む場合は次の通りです。

銀行名	: ゆうちょ銀行
預金種類	: 当座
店番	: 019
店名（カナ）	: 〇一九店（ゼロイチキュウ店）
口座番号	: 0703976
受取人名	: ニホントシヤカイガッカイ

◆ 第 34 回大会へのご参加のお願い

次回学会大会は、2016 年 9 月 3 日（土）、4 日（日）の日程で佛教大学紫野キャンパスにて開催されます。是非ともご参加いただき、大会を盛り上げてくださいますよう、お願い申し上げます。なお、日程が当初より変更となっておりますのでご注意ください。

◆ ご所属先等変更のご連絡のお願い

新年度より、ご所属先やご住所等が変更となる会員の皆様もおられるかと思います。その場合は、事務局へメールにてご連絡くださいますよう、くれぐれもよろしくお願い申し上げます。

（事務局担当理事 山口恵子）